

1. 教育目標

病理学全般に関する知識と技術を習得したうえに、分子病理学的手法の原理を理解し、また自ら実行できるようにする。これにより解明すべき病態を自ら抽出して、それに関して分子病理学的手法を駆使し深く掘り下げる研究が可能となる。研究の遂行のためには何が必要かを自ら主体的に考える姿勢を重視し、それに対する支援を行う。また、学会発表の方法や研究論文の書き方についても指導し、最終的に研究者として独り立ちできるように指導する。

2. 到達目標

- (1) 一般的な病理学に関する知識について説明できる。
- (2) 分子病理学的手法の原理を理解し、自ら実行できる。
- (3) インターロイキン 18 による癌の免疫療法について説明できる。
- (4) epigenetic modifier による腫瘍の治療法についての問題点を分析し、その研究を実行できる。
- (5) 疾患特異的 G 蛋白質共役型受容体のスクリーニング法についての問題点を分析し、その研究を実行できる。
- (6) 消化管間葉系腫瘍の病態及び消化管運動の制御とその異常に関する問題点を分析し、その研究を実行できる。
- (7) 腫瘍の分子病理学的診断に関する問題点を分析し、その研究を実行できる。
- (8) 腫瘍の分子標的治療や免疫療法に関する問題点を分析し、その研究を実行できる。
- (9) 様々な疾患の発症機構に関する未解決な事例を分析し、その解明に向けた研究を実行できる。

3. 成績評価の方法と基準

成績の評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、到達目標に対する達成度及び修得すべき基礎知識・技能の修得度により行う。

病理学に関する一般的な知識や技術、分子病理学的手法の原理と実践についてカンファレンス等において試問し、評価する。(40%)

研究課題に関する問題点の分析ができていないか、また研究が倫理的に進行しているかについてカンファレンス等において発表してもらい、評価する。(30%)

学位論文の作成過程でレポートを提出してもらい、研究に関する背景や世界的現状、研究結果の解析、考察が十分に把握できているかを評価する。(30%)

4. 教科書・参考書

特に定めない。

5. 準備学習

事前に関連文献を検索して予習すること。(1時間程度)

事後にも関連文献を検索して、より新しい知識を習得すること。(1時間程度)

6. フィードバック方法

当該年度修了時に提出する「研究計画書」、又は「研究進捗・指導状況報告書」によりフィードバックを実施する。

(第1学年・昼間開講)

【病理診断学】

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
演習	研究経過報告と関連論文の抄読	廣田主任教授 木原講師	月曜/2限	通年	4	カンファレンス ルーム
実験 研究	分子病理学的手法の実際	山田講師 山根木臨床講師	火曜/1・2 限	通年	4	実験室
講義	腫瘍発生の分子機構	松田准教授 井出講師	水曜/2限	半年	2	カンファレンス ルーム
実験 研究	病理学的検索方法の基礎	山田講師 木原講師	木曜/1・2 限	通年	4	実験室

(第1学年・夜間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
実験 研究	分子病理学的手法の実際	山田講師 山根木臨床講師	月曜/6・7 限	通年	4	実験室
演習	研究経過報告と関連論文の抄読	廣田主任教授 木原講師	火曜/6限	通年	4	カンファレンス ルーム
実験 研究	病理学的検索方法の基礎	山田講師 木原講師	水曜/6・7 限	通年	4	実験室
講義	腫瘍発生の分子機構	松田准教授 井出講師	木曜/6限	半年	2	カンファレンス ルーム

(第2学年・昼間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
演習	研究経過報告と関連論文の抄読	廣田主任教授 木原講師	月曜/2限	通年 隔週	2	カンファレンス ルーム
実験 研究	分子病理学的手法の実際	山田講師 山根木臨床講師	火曜/1・2 限	通年	4	実験室
実験 研究	病理学的検索方法の基礎	山田講師 木原講師	木曜/1・2 限	通年	4	実験室

(第2学年・夜間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
実験 研究	分子病理学的手法の実際	山田講師 山根木臨床講師	月曜/6・7 限	通年	4	実験室
演習	研究経過報告と関連論文の抄読	廣田主任教授 木原講師	火曜/6限	通年 隔週	2	カンファレンス ルーム
実験 研究	病理学的検索方法の基礎	山田講師 木原講師	水曜/6・7 限	通年	4	実験室